



深川・猿江橋にて（写真提供：佐伯泰英事務所）

佐伯通信

2021年1月(令和3)
第54号
発行 佐伯泰英事務所
担当 文藝春秋
禁・無断転載

深川猿江町を訪ねた。約
束の刻限にいささか早かっ
たので近くの猿江橋を見物
に行った。

私の知る「猿江橋」は江
戸中期から後期にかけて
二百年以上も前の橋だ。小
名木川と交差する横川に架
かる「猿江橋」は、古地図
上の知識で想像上の橋だ。

ある歴史事典には「横川に
架かる猿江橋は御入用橋で
文政元年（一八一八）に架
替え。橋梁を番人に貸して
家作を建てて管理」とある。
私が知る「猿江橋」はこの
時代前後の想像上の虚構の
産物だ。当時の横川は川幅
二十間全長一里。さて私が
眼前にする現在の横川には
昔とほぼ同じと思える川幅
に巨大なクレーン船と工事
船舶が止まって護岸工事を
なしていた。このクレーン
船どこから入ってきたのだ
ろうかと訝しく思った。な
にしろ橋桁と水面は二mと
あるかなし。私の疑問が

佐伯泰英／近刊のお知らせ

4月 6日	3月 10日	2月 9日
『初詣で』 《文春文庫》 照降町四季 1 「佐伯通信 第55号が入ります。」（初版の初回出荷分のみ挟み込み）	新・吉原裏同心抄 『祇園会』 《光文社文庫》	新・酔いどれ小籐次 『三つ巴』 《文春文庫》

※発売日は予定です。

《文春文庫》 居眠り聲音 〔決定版〕 いよいよ完結！	2月9日 47『失意ノ方』 48『白鶴ノ紅』 3月9日 49『意次ノ妄』 50『竹屋ノ渡』 51『旅立ノ朝』
-------------------------------------	--

心に灯りを

文藝春秋文庫
「酔いどれ小籐次」「居眠り聲音」シリーズ担当

瀬尾 巧



読者のみなさま、『幼なじみ』をお買い上げいただきありがとうございます。
「新・居眠り聲音」第5弾となる本作は、深川の唐傘長
屋でともに育った幼馴染みが主人公ですが、カバー画のふたり——
特大の鰻を捕まえて誇らしげな幸吉、優しい眼差しで微笑みを返す
おそめをご覧いただければ、もはや多言は無用でしょう。隣の席の
〇〇ちゃんに伝えられなかった気持ち、恋という言葉も知ら
なかったあの頃の甘酸っぱい想いが、まざまざと思い出されるので
はないでしょうか。

そしてもう一つ、私がいいなあと感じたのは、深川の人々の縁です。
幸吉は深川の長屋暮らしを「お互いが助け合って生きていくところよ」
と語ります。胸に沁みました。とかく殺伐とした当今、心にぽっと灯
りがともる物語です。

さて、「居眠り聲音 決定版」シリーズは、3月、いよいよ完結を
迎えます。「毎月2冊ずつ刊行」というかつてない計画に仰天した日
から3年余。聲音の長い旅路に伴走できたことは編集者冥利に尽き
る経験でした。ご愛読いただきました読者のみなさま、ありがとうご
ざいました。感謝の気持ちに代えて、プレゼント企画を準備中です。
とくに全51巻を読了された方には、佐伯先生からあなただけへのプ
レゼントが届きます。詳細は、3月刊の帯、「佐伯通信」55号、特
設サイトなどでお知らせします。ご期待くださいませ。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2021年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が株光文社、株文藝春秋の協力のもと発行します。

解決しないまま、約束の刻
限が近づいたので猿江ガラ
スを訪ねた。娘と幾たびか
電話で話し合い、親子で訪
ねることになったのだ。

私は「猿江ガラス」につ
いて知識が全くなかった。
金属製の筒の先に息を吹き
込む「宙吹き」を主とする
ガラス工房としては東京二
十三区一とか。どなたかが
この猿江ガラスについて
「刀鍛冶の現場」のようだ
とお書きになっていたが、
まさに現代の刀鍛冶場だっ
た。だが厳しきだけではな
く、宙吹きを楽しむ若い工
芸家がいた。これらの若者

をメインプロローグの越中
真知子女史が主導している
のだ。女史の作品は国内外
の有名ホテルやレストラン
に納められているという。
私は工房に入った瞬間、む
べなるかな、と思った。
なぜ親子が猿江ガラスを
訪ねたか、この稿では書け
ない。私はほとんど猿江ガ
ラスに無知だからだ。江戸
の「深川猿江町」に世界有
数のガラス工房がある、そ
の事実だけを触れておきた
い。

書き下ろし新作、登場！

女性職人を描く〈全四巻〉4か月連続刊行

「佐伯通信」第55号は、3月10日刊
行予定の「新・吉原裏同心抄 祇園
会」(光文社文庫)に入ります。

照降町四季 1

日本橋の近く、傘や下駄の店が
軒を連ねる「照降町」に、鼻緒屋
の娘が出戻ってきた——江戸の
大火と復興を通して描く、知恵と
興奮の物語、スタート！

4月6日刊行(予定)

出版社からのお知らせ ● 文春文庫